

第42回 「京の郷土芸能まつり」

テーマ 「鎮魂と念仏」

近年、天災が人災とも取れる災害が地球全体規模で発生し、人命、平和を脅かす状況が続いているように思えます。

古くから伝わる郷土の行事、芸能には、これら災いをもたらすのは悪霊だとして、その靈魂を鎮めるため、また、被災にあわれた人の慰霊のために始められたとされるものが多い。京都の伝統行事、芸能も同様である。

今回の舞台は、「鎮魂と念仏」をテーマに、このような、災いをもたらす靈魂、疫病を祓う、鎮魂のため、また、慰霊、供養として行われてきたとされる行事、芸能を紹介します。

かみ たかの ねん ぶつ く ようおどり

■上高野念仏供養踊 (上高野念仏供養踊保存会)

亡くなった人の御霊を供養するために踊られる念仏踊。京都の洛北地域は、中世後期以来、盆の時期に様々な踊りが行われていたようです。上高野念仏供養踊は、延宝8年(1680)には、上高野地域で踊られていたことが文献から知られます。踊りは、本来、集落の広い角地などで行われ、最後に崇道神社御旅所で踊られていましたが、現在では、8月19日に集落にある宝幢寺境内で行われています。

宝幢寺の住職の回向が行われた後、口上役が、「念仏踊りが始まるほどに、なたら運つらって踊ってたもれ。」と高らかに呼びかけて、施餓鬼台を中心に踊ります。囃子は、浴衣姿の男性がつとめ、太鼓1人、鉦4人が、施餓鬼台に向かって並びます。踊り手は、女性が中心で揃いの浴衣に三巾前垂れ、赤の襷、白足袋、赤緒草履という姿に右手に団扇を持ち念仏を唱えつつゆったりと踊り前進する振りが基本です。単純な動きの繰り返し、芸能の古さを感じさせます。

かわ かみ

■「川上やすらい花」 (川上やすらい踊保存会)

川上やすらい花は、平安時代に起源をもち、都に蔓延する疫病を鎮めるために風流ふうりゅうの衣装をして鉦、太鼓をたたき、踊りながら、無病息災を祈願したのが始まりといわれます。花で飾った美しい花傘を中心に「やすらい花や」の音頭に合わせ、赤熊しやこの鬼が鉦や太鼓を囃し、踊りながら氏子町内をまわり神社に集まります。「やすらい花」は、現在京都洛北の四つの地域に伝承され、内容、形態ともにほぼ同じで、室町時代に流行した風流の拍子物の影響を受けた芸能を伝え重要無形民俗文化財に指定されています。川上やすらい花は、四つのやすらい花の一つで、洛北、西賀茂川上町を中心とする地域の人々により毎年、4月第二日曜日に行われています。行列は川上大神宮社に参り、川上町内とその周辺をまわり、今宮神社に踊を奉納する昔からの名残を伝えています。

■京都祇園祭「岩戸山祇園囃子」 (財団法人岩戸山鉦保存会)

祇園祭は、貞観11年(896)都に疫病が流行した時、当時の国数である66本の矛を建て、疫病退散を祈願したのが始まりといわれます。保元、平治、応仁の乱のたびに途絶えましたが、戦乱が収まるごとに町衆の創意、趣向が凝らされ、江戸時代にはますます豪華絢爛になりました。現在の祇園祭は、7月1日の吉符入きつふいりに始まり、17日の山鉦巡行、24日の花傘巡行、31日の夏越祭までの1カ月にわたる行事です。山鉦の重要有形民俗文化財、山鉦行事の重要無形民俗文化財指定に止まらず、「京都祇園祭の山鉦行事」として、ユネスコ無形文化遺産に登録され、世界の文化遺産として高い評価を受けています。この祇園祭山鉦巡行で囃される祇園囃子は、神楽に始まり、念仏音楽、風流囃子を取入れ、後に能楽の影響を受け今日の囃子となったといわれ、現在、山鉦巡行する32基の山鉦のうち囃子を奏でるのは12基で、一部を除き山鉦の上で、鉦、太鼓、笛で囃されます。今回の催しでは、12基の祇園囃子の中から岩戸山の囃子を紹介いたします。

せん ほん ろく さい ねん ぶつ

■「千本六齋念仏」 (千本六齋保存会)

六齋念仏は、平安時代空也上人が民衆に信仰を広めるために、鉦や太鼓をたたいて踊躍念仏をはじめたのが起りといわれ、後に仏教で言う悪鬼が出て人命を脅かす日とされる六齋日に念仏を唱えたことからこの名で呼ばれるようになったといわれます。それが、江戸時代中期から次第に風流化し、特に、能、狂言、歌舞伎などを取入れた娯楽性豊かな芸能に発展し、盆の行事を中心に継承されてきました。現在、京都市内に10数団体の六齋念仏が継承され、重要無形民俗文化財に指定されています。京都の六齋念仏には、念仏系六齋と芸能系六齋とがありますが、千本六齋念仏は、北区と上京区にまたがる千本ゑんま堂界隈を中心とした西陣の西北部で継承される、風流化の強い芸能系六齋に属します。近年では、盆の年中行事として毎年、8月14日夜、引接寺(通称:千本閻魔堂)境内の舞台においてこの六齋念仏の奉納が行われています。

よし だ じん じゃ せつ ぶん さい つい なしき

■吉田神社節分祭「追儺式」 (吉田神社神楽岡町追儺保存会)

季節を分けると書く節分には、寒さの厳しい冬から暖かい春を迎える季節の変わり目に、陰と陽とが対立して邪気が生じて、災いをもたらすとされてきました。追儺式とは、その邪気・疫病神を追い払い、一年間の災いを除いて新年を迎える年越しの行事です。節分祭は、宮廷行事の追儺の儀礼を起源とするといわれます。この追儺は鬼やらいともいわれ、平安時代の初期から毎年宮中で行われていた儀式です。

吉田神社の節分祭は、室町時代に吉田兼俱かねとよが当社境内に大元宮を造営して、節分詣が行われたのが始まりといわれますが、現在行われている追儺式は近代になって宮中の追儺儀礼に基づいて復元されたもので、本来は目に見えない疫鬼を方相氏が追いたるものであったが、現在は、目に見える鬼が登場し、追い払うようになっています。赤鬼は、世の中の諸々の「怒り」、青鬼は「悲しみ」、黄鬼は「苦しみ」を表現しています。吉田神社節分祭は、毎年2月2日から4日にかけて行われ、この追儺式は節分前日祭の2日の夜に本宮前で行われています。

■特別出演 京都ゆかりのまち 宮城県大崎市 「高倉薬太鼓」

平成23年3月11日に発生した、東日本大震災により、大勢の人命、平和な家庭が奪われました。被災地では、現在も、復興活動を続けられています。

特に大きな被害を受けられた宮城県の「京都ゆかりのまち」として全国京都会議に加盟されている大崎市で、「がんばろう・おおさき」をテーマに大崎市復興芸術文化事業「音楽が聞こえる都市(まち)づくり」が9月10日に開催され、京都から「舞妓」が特別出演し観光支援をおこないました。地元大崎市からは、地元で根ざした活動を通して、和太鼓の魅力を伝承する「高倉薬太鼓」が、復興への願いを込めて演奏されました。被災地復興に向かって頑張っておられる大崎市から元気の復興の気運を発信すべく、今回の舞台に地元で活動されている「高倉薬太鼓」の特別出演をお願いし、新たな郷土芸能として、また復興の息吹として、公演活動されているそのパワーを、紹介します。

日本のふるさと・国民の宝 京の文化遺産を守りましょう

京都の文化財を次の世代に伝えるための募金にご協力を

みなさまからの募金が、京都の文化財、伝統行事、芸能を守ります。

◇ご協力いただいた方には、会員として文化財特別参観など文化財関係の催しにご案内します。

◇会員の特典 ■会報の送付

■文化財特別参観など諸事業に参加できます。

詳しくは右記までお問い合わせください。

公益財団法人 京都市文化観光資源保護財団

〒606-8342

京都市左京区岡崎最勝寺町13 京都館内

TEL.075-752-0235 FAX.075-752-0236

URL <http://www.kyobunka.or.jp>

